

証券コード：2922



株主のみなさまへ

第59期報告書

平成18年4月1日～平成19年3月31日



 株式会社なとり





株主の皆様には、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

また、日頃より「なとりグループ」に格別のご高配を賜り誠にありがたく厚く御礼申し上げます。

中期経営計画「チャレンジto 60」の2期目にあたります第59期におきましては、お客様の「安心・安全」に対する要請にお応えするために、品質管理体制の強化を徹底的に推し進めるとともに、新しいマーケットの創造と開拓を目指し、積極的に新製品開発、販売戦略を推進してまいりました結果、増収増益の決算となりました。

しかしながら、現在のおつまみ市場は、他業種からのおつまみ業界への参入などの業種・業態を超えた企業間販売競争が激化しており、乾き珍味市場全体では、横ばい傾向にあります。加えて、消費者の嗜好の変化などにより、おつまみのジャンルそのものが多様化し、大手コンビニエンスストアやスーパーなどではおつまみ売場自体がボーダーレス化しております。原料面におき

ましては、主要原料である、いか、チーズ、豚肉などの価格は高騰している状況であり、さらに食品の安心・安全に対する消費者の関心の高まりによる品質管理の徹底と製品の安全性が強く求められている状況にあります。

このような状況にありまして、中期経営計画「チャレンジto 60」の最終年度にあたります第60期も、顧客志向を原点とした「素材の風味を活かし、手軽に食べられ、楽しさを演出するおつまみをお届けします。」という「新おつまみ宣言」のもと、仕事の質と製品の質を高く維持し、常に消費者の視点に立ち、当社の伝統であるまじめな製品作りに努め、「おつまみの真のNo.1企業」を目指してまいります。

株主の皆様におかれましては、何卒一層のご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

平成19年6月吉日

なとり「新おつまみ宣言」

素材の風味を活かし、手軽に食べられ、楽しさを演出するおつまみをお届けします。

経営理念

株式会社なとりとそのグループは、自由闊達にして公正で節度ある企業活動により、食文化の創造と発展を通して、顧客満足・株主還元・社会貢献の実現を図り、社会的に価値ある企業として、この会社に係わるすべての人が誇りを持てる会社を目指します。

ミッション

素材の風味を活かし、生産・流通・販売において温度帯にとらわれず、手軽に食べられ、様々な食シーンにマッチする、楽しさの演出に欠かせないおつまみをお客様にお届けします。

ビジョン

チャレンジ to 60を通して、「おつまみ」の真のNo.1企業を目指します。

代表取締役社長
名取三郎

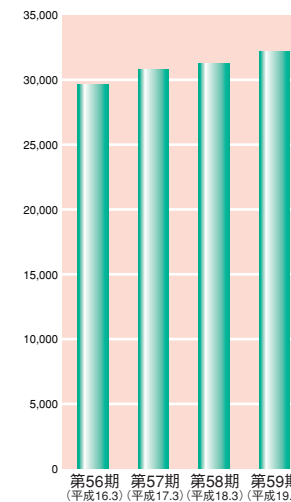
Contents

トップメッセージ 1
 財務ハイライト 2
 株主のみなさまへ 3
 商品ラインナップ 5
 新商品紹介 7
 クローズアップ 8
 財務の状況 9
 株式の状況 12
 会社の概要・企業集団の状況 13
 開発・生産・営業・物流拠点 14

連 結	第56期 (平成16年3月期)	第57期 (平成17年3月期)	第58期 (平成18年3月期)	第59期 (平成19年3月期)
売上高 (百万円)	29,733	30,805	31,215	32,448
経常利益 (百万円)	1,013	1,084	963	1,271
当期純利益 (百万円)	551	669	541	739
1株当たり当期純利益 (円)	40.18	48.62	38.23	51.88
総資産 (百万円)	24,991	23,888	24,294	24,787
純資産 (百万円)	11,505	12,274	13,027	13,884
自己資本比率 (%)	46.0	51.4	53.6	56.0
1株当たり純資産 (円)	847.78	881.30	916.49	946.14

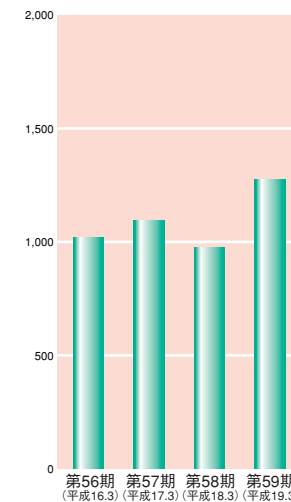
売上高

(単位:百万円)



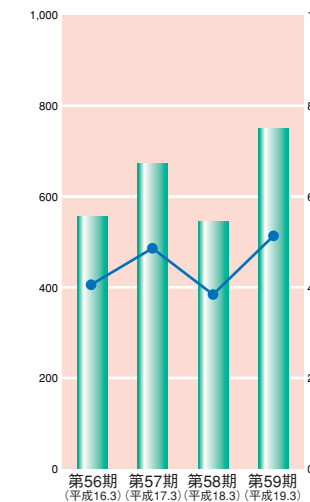
経常利益

(単位:百万円)



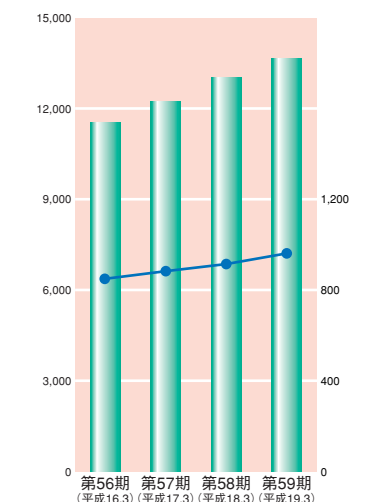
当期純利益
1株当たり当期純利益

(単位:百万円)
(単位:円)



純資産
1株当たり純資産

(単位:百万円)
(単位:円)



Q 1. 第59期はどのような1年でしたか

A 第59期におけるわが国経済は、米国景気の先行き不透明感などを受け、輸出関連業種を中心に景況感が鈍化したものの、国内での設備投資や雇用は増勢を続けており、景気はなお持続力を保っている状況となっております。

加工食品業界・小売業界では、業種業態を越えた企業間の販売競争がより激化しております。また、お客様の「安心・安全」に対する要請に応えるため、品質管理体制のさらなる強化が必要となっております。

このような状況のもと、第59期より新しいマーケットの創造と開拓を目指し珍味売場向け5製品群（「水産」「畜肉」「酪農」「農産」「その他」と珍味売場以外の4製品群（「小物菓子」「素材菓子」「スナック菓子」「チルド」）の「2カテゴリー9ジャンル」にきめ細かく分類し、各ジャンルにおいて、積極的に製品開発、販売戦略を推進いたしており、当社グループの第59期経営成績は、前期比増収増益で終了いたしました。

ジャンル別に見ますと、珍味売場においては、「いか」を中心とした水産加工品は、市場の成熟化に歯止めがかからず微減、農産加工品は、豆以外の製品が苦戦したことでほぼ横ばいとなりました。一方、畜肉・酪農の2製品群は増収、特に当社の代表的製品とも言える「チーズ鱈」の新製品が大きく寄与した酪農加工品は前期比117.5%と大幅な増収となりました。

珍味売場としては、小物菓子製品は、ほぼ横ばいとなりましたが、素材菓子製品、スナック菓子製品、チルド製品は、積極的な新製品投入が寄与し増収となりました。

その結果、第59期の売上高は324億48百万円（前期比4.0%増）となりました。

収益面では、新製品の市場投入による売上増加及び既存製品規格の見直し等により、売上総利益が103億94百万円（同4.2%増）と増加いたしました。

販売費及び一般管理費は引き続きローコストオペレーションによる全社コスト削減に努めた結果、91億38百万円（同0.8%増）となり、営業利益12億56百万円（同38.2%増）、経常利益12億71百万円（同32.0%増）、当期純利益は7億39百万円（同36.5%増）となりました。

Q 2. 第59期に発売された新製品について教えてください

A 珍味売場向けカテゴリーでは、原料や製法に徹底的にこだわった“プレミアムおつまみ”「一度は食べていただきたい」シリーズとして、「おいしいさきいか」「おいしいあたりめ」などの6種類、手軽さと利便さで売れ行きが好調なボトルの容器に入れた製品として、「ピリ辛まるごと焼きするめ」「梅干昆布」、バジルをチーズ鱈に混ぜ込み豊かな香りを再現したピザラとのコラボレーション製品「ピザラチーズ鱈イタリアンバジル味」などの製品拡充を図りました。

また、珍味売場以外のカテゴリーでは、素材に野菜を使用し独特の食感を再現した「ひとくち紫いも」、果実そのものをぎっしりと詰め込んだ贅沢感とミックスしたフルーツの新たなおいしさ・食感のドールとのコラボレーション製品「ちっちゃなせいたく果実」シリーズ、当社のロングセラーである「チーズ鱈」をスナック菓子として、カップ容器に入れた「ペイクドチーズフィッシュベコン&ペッパー」、チルドならではのなめらかさ、クリーミーさを特徴とした「くちどけチーズたらブラックペッパー」「くちどけチーズたらオリーブ」などを新たに市場へ投入いたしました。

Q 3. 中期経営計画の進捗状況について教えてください

A 第59期における中期経営計画「チャレンジto60」の進捗状況については、まず『おつまみ事業への経営資源の集中』として、関係会社の整理統合、人事制度の確立などを進めると同時に、お客様のニーズに合った価値ある新製品の開発に引き続き取り組むことで、安定した収益確保ができる事業構造の確立を進めております。

また、珍味売場の販売拡大に注力する一方、視点を変えて、容器やパッケージの面から訴求したボトルおつまみやスタンディングパウチの製品発売、さらに従来と異なったデザイン性の追求などによって、『新たなおつまみ市場の創出』に取り組んでおります。

『グローバル体制の確立』につきましては、仕入、生産、物流等の各面より体制強化に引き続き取り組んでおります。また、「いか」を中心とした中国での加工についても、中国リスクを勘案しつつ継続して推進しております。

『企業の社会的責任の推進』としましては、より安心・安全な製品をお客様にお届けするために、食品関連法令の遵守を基本方針とした「なとり品質保証憲章」の見直しを行いました。さらに、環境配慮面では、産業廃棄物の削減やCO₂排出量の削減等、環境保全活動を推進しております。

また、現在注目されております「食育」につきましても、食品メーカーの社会的責任として捉え、その基本方針を当社ホームページに掲載し、今後積極的に取り組む予定でございます。なお、食育の基本方針を以下に記載しております。

なとりの食育基本方針

私たちなとりグループは、「食文化の創造と発展を通して、社会貢献の実現を図り、社会的に価値ある企業を目指す」という経営理念のもと、食に関わる企業の社会的責任として、私たちがお客様にお届けしている「おつまみ」に関する基本的な知識と理解を深めてもらうため、積極的に「食育」に取り組んでまいります。

Q 4. 今後の見通しについて教えてください

A 当社グループは中期経営計画「チャレンジto60」の最終年度を迎え、引き続き本部ごとの目標を明確化し、顧客志向に基づく事業基盤の確立と収益力向上へ向け、以下の諸施策を進めてまいります。

販売面における施策としては、営業拠点の再編成や既存組織の見直し、また未取引チェーンへの営業活動強化、さらに各取引先のインスタシェアアップ、そして返品削減、営業企画機能の強化などに重点的に取り組んでまいります。

生産面では、引き続き「安心・安全」を徹底的に追求した設備や機器の導入を推進するとともに、オートメーション化の推進による省人化、生産性の向上による省力化とコストダウン、また好調な酪農関連の生産ライン増設などを検討しております。

原料調達面では、長引く原料高や原油価格高騰への対応として、新原料開発、代替原料調達等によるグローバル展開を引き続きおこなっていくほか、ジャストインタイムに基づいた在庫の適正管理に取り組むことにより、品質とコストの両面から追求を図ってまいります。

物流面では、市場動向に合わせた適正在庫の維持・管理や情報システムによる情報の共有化等、ロジスティクスに基軸をおいた仕組みづくりに取り組み、配送効率の向上及び一元管理によるコストコントロールを徹底してまいります。

さらに、設備投資面では、遊休資産を活用した不動産事業なども進めてまいります。

これらの施策による第60期の業績見通しは、連結売上高331億円（前期比2.0%増）、営業利益14億円（同11.5%増）、経常利益14億60百万円（同14.8%増）、当期純利益7億90百万円（同6.8%増）を見込んでおります。

素材の風味を活かし、手軽に食べられ、楽しさを演出するおつまみをお届けします。

畜肉加工品



資沢粗挽きサラミ
一度は食べていただきたい粗挽きサラミ



WILD JACK ビーフジャーキー
一度は食べていただきたい粗挽きサラミ



ビーフジャーキー 赤ワイン仕立て



ハッピーバリュー ジャッキーカルパス



おつまみ市場 本格サラミドイツ風

酪農加工品



一度は食べていただきたい熟成チーズ鱈



チーズ好きが食べるおいしいチーズ鱈



ピザラチーズ鱈 エビマヨ味



カマンベールチーズ鱈



濃厚チーズ鱈



おつまみ市場 チーズ鱈

水産加工品

珍味売場 29,194百万円 (90.0%)



一度は食べていただきたいおいしいさきいか



ソフトいか燻製



するめチップボトル



一度は食べていただきたいおいしいさきいか



ソフトさきいか



するめいかの やわらかいか天



帆立貝柱燻製



チーズかまぼこ



おつまみ昆布



茎わかめ梅味



鮭とばロング



やわらか鮭くん製

農産加工品



ピスタチオ



むき枝豆



つぶ餅ピーナッツ

その他製品



錦なとりデリカ 洋風惣菜



株好飲茶 金萬福の中華名菜飲茶セット



おつまみカルテット

珍味外売場 3,245百万円 (10.0%)

総売上高 32,448百万円

チルド製品



くちどけチーズたら (ブルーネ)



くちどけチーズたら (オレンジ)



くちどけチーズたら (ブラックペッパー)



くちどけチーズたら (オリーブ)



あさりのバター醤油味



いかステーキ ピリ辛味



おつまみ昆布



つぼ焼風 貝の醤油焼き

素材菓子



ちっちゃなぜいたく果実 (スイーティオバイン&マンゴー)



プルーン



むき甘栗



ねりうめ



梅スッキリ種ぬきボトル



カリカリ梅

スナック菓子



ベイクドチーズフィッシュ ペーコン&ペッパー味



おさかなのうす焼きスナック 青のりしょうゆ味



ベイクドチーズフィッシュ パジル&ガーリック味

小物菓子



濃厚ソースカツ



ビーフジャーキー



茎わかめ



ジャッキーカルパス



のしたら旨辛キムチ味

珍味売場			製品群別の売上高・構成比	珍味外売場		
水産加工品	17,514百万円	54.0%		小物菓子	899百万円	2.8%
畜肉加工品	4,549百万円	14.0%	素材菓子	2,005百万円	6.2%	
酪農加工品	3,688百万円	11.4%	スナック菓子	101百万円	0.3%	
農産加工品	980百万円	3.0%	チルド製品	238百万円	0.7%	
その他製品	2,461百万円	7.6%				

食べやすいおつまみ シリーズ



「硬くて噛み切りにくい」というおつまみの不満を解消するため、当社独自の技術で食べやすくカットした新商品です。「ほぐれるビーフジャーキー」と「ちぎれるあたりめ」の2商品を新発売。今後も新たなアイテムを続々投入予定です。

ピザーラ チーズ鱈 エビマヨ味



宅配ピザNo.1のピザーラとのコラボレーション商品第3弾「ピザーラ チーズ鱈エビマヨ味」。「ピザーラ エビマヨ」の最大の特徴は「オーロラソース」。「オーロラソース」とは、マヨネーズとケチャップをブレンドしたソースのことで、パウダー状にしたトマトとミルクを使用し、独特のコクと甘味でまろやかな味を再現しています。チーズはデンマーク産のサムソー、マリボーと国産チェダーをブレンド。くせのない味でエビ本来の風味を絶妙に引き出しています。

ちっちゃなぜいたく果実 シリーズ

青果物生産量世界一の「ドール」とのコラボレーション商品。果実そのものをふんだんに使用することで、フルーツの新たな食感が楽しめるひとくちサイズの素材菓子です。



素材のころろ シリーズ

「種めき梅すっきり」や「カリカリ梅」などヘルシーな梅の素材菓子を2007年3月より8商品を新発売。チャック付きで女性の小さなバッグにも入るので携帯にも便利です。



くちどけチーズたら

クリームチーズのソフトでクリーミーな味わいが好評の「チルドチーズたら」が「くちどけチーズたら」とネーミングも一新。味のバリエーションも豊富になりました。



話題の商品

ボトルタイプ商品

2005年夏に販売開始以来、お客様からご好評をいただいております「梅スッキリ」ボトルタイプ。2006年秋には、女性のお客様をも視野に入れ、新たなニーズにお応えするため、おつまみとしてのボトルタイプ「すめちupp」「ほたて貝ひも」を発売いたしました。2007年1月には「ピリ辛まるごと焼するめ」「梅干昆布」も新発売。これらの商品は、その便利さと一口サイズの手軽さが受けて、テレビや新聞などでも取り上げられ、大きな話題を呼んでいます。



トピックス

モンドセレクション金賞受賞



2005年12月に発売したデンマーク産チーズを使った「濃厚チーズ鱈」と2006年9月に発売した熟成チェダーチーズを使用した「一度は食べていただきたい熟成チーズ鱈」の2商品が、世界的に権威のある食品品評会「モンドセレクション」において2007年の金賞を受賞いたしました。



※ モンドセレクション 1961年にベルギー政府とECが共同して、菓子を中心とした食品の品質向上を目的に設立された国際的な食品品評会。2007年はスペインのバルセロナで授賞式が行なわれました。

財務の状況

連結貸借対照表

(単位:百万円)

資産の部	当期	前期
	(平成19年3月31日現在)	(平成18年3月31日現在)
流動資産	11,738	11,122
現金・預金	2,085	1,102
受取手形・売掛金	5,407	4,697
たな卸資産	3,704	4,778
繰延税金資産	199	170
その他の資産	346	382
貸倒引当金	△5	△9
固定資産	13,048	13,171
有形固定資産	11,477	11,505
無形固定資産	135	122
投資その他の資産	1,435	1,542
資産合計	24,787	24,294

POINT 1 資産合計

資産の部は主として、たな卸資産が減少、現金・預金、売掛金の増加により連結総資産は247億87百万円となりました。

POINT 2 負債合計

負債の部は、主に長期・短期の借入金が減少したことにより109億2百万円となりました。

POINT 3 純資産合計

純資産の部は、アルパイン円貨建転換社債型新株予約権付社債の新株予約権行使により資本金・資本剰余金がそれぞれ増加、利益剰余金も前期比5億89百万円増加した結果、純資産合計は138億84百万円となり、自己資本比率は前期比2.4ポイント増の56.0%となりました。

負債の部

負債の部	当期	前期
	(平成19年3月31日現在)	(平成18年3月31日現在)
流動負債	8,989	8,252
支払手形・買掛金	3,717	2,854
短期借入金	1,689	3,796
1年以内に返済予定の長期借入金	198	193
1年以内に償還予定の新株予約権付社債	641	—
未払法人税等	533	31
賞与引当金	303	298
その他の	1,906	1,079
固定負債	1,913	2,891
新株予約権付社債	—	994
長期借入金	973	938
繰延税金負債	664	755
役員退職慰労引当金	180	141
その他の	94	61
負債合計	10,902	11,143

少数株主持分	—	122
--------	---	-----

資本の部

資本の部	当期	前期
資本合計	—	13,027
資本金	—	1,478
資本剰余金	—	1,793
利益剰余金	—	9,560
その他有価証券評価差額金	—	198
自己株式	—	△2

負債・少数株主持分・資本合計	—	24,294
----------------	---	--------

純資産の部

株主資本	当期	前期
株主資本	13,770	13,770
資本金	1,654	1,654
資本剰余金	1,970	1,970
利益剰余金	10,149	10,149
自己株式	△4	—

評価・換算差額等	113	—
その他有価証券評価差額金	113	—

少数株主持分	—	—
--------	---	---

純資産合計	13,884	—
--------------	---------------	----------

負債・純資産合計	24,787	—
----------	--------	---

連結損益計算書

(単位:百万円)

	当期	前期
	平成18年4月1日から平成19年3月31日まで	平成17年4月1日から平成18年3月31日まで
売上高	32,448	31,215
売上原価	22,054	21,238
売上総利益	10,394	9,977
販売費及び一般管理費	9,138	9,068
営業利益	1,256	908
営業外収益	74	125
営業外費用	58	71
経常利益	1,271	963
特別利益	354	81
特別損失	362	66
税金等調整前当期純利益	1,264	978
法人税、住民税及び事業税	583	80
法人税等調整額	△61	356
少数株主利益	2	△0
当期純利益	739	541

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	当期	前期
	平成18年4月1日から平成19年3月31日まで	平成17年4月1日から平成18年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,303	△351
投資活動によるキャッシュ・フロー	△163	△231
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,209	259
現金及び現金同等物の増減額	929	△323
現金及び現金同等物期首残高	769	1,092
現金及び現金同等物期末残高	1,698	769

POINT 4 売上高

珍味売場においては、「いか」を中心とした水産加工品は、市場の成熟化に歯止めがかからず微減、農産加工品は、豆以外の製品が苦戦したことでほぼ横ばいとなりました。一方、畜肉・酪農の2製品群は増収、特に当社の代表的製品とも言える「チーズ鱈」の新製品が大きく寄与した酪農加工品は前期比117.5%と大幅な増収となりました。
珍味外売場としては、小物菓子は、ほぼ横ばいとなりましたが、素材菓子、スナック菓子、チルド製品は、積極的な新製品投入が寄与し増収となりました。

連結株主資本等変動計算書

(自平成18年4月1日至平成19年3月31日)

(単位:百万円)

	株主資本					評価・換算差額等 その他有価証券 評価差額金	少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計			
平成18年3月31日残高	1,478	1,793	9,560	△2	12,829	198	122	13,150
連結会計年度中の変動額								
新株の発行	176	176	—	—	353	—	—	353
剰余金の配当(注)	—	—	△71	—	△71	—	—	△71
剰余金の配当	—	—	△71	—	△71	—	—	△71
役員賞与(注)	—	—	△7	—	△7	—	—	△7
当期純利益	—	—	739	—	739	—	—	739
自己株式の売却	—	0	—	0	0	—	—	0
自己株式の取得	—	—	—	△1	△1	—	—	△1
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額(純額)	—	—	—	—	—	△84	△122	△207
連結会計年度中の変動額合計	176	176	589	△1	941	△84	△122	733
平成19年3月31日残高	1,654	1,970	10,149	△4	13,770	113	—	13,884

(注)平成18年6月の定時株主総会における利益処分項目であります。

財務の状況

個別貸借対照表

(単位:百万円)

資産の部	当期	前期
	(平成19年3月31日現在)	(平成18年3月31日現在)
流動資産	10,437	10,222
現金・預金	1,409	603
受取手形・売掛金	4,993	4,342
たな卸資産	3,427	4,478
繰延税金資産	134	114
その他	476	689
貸倒引当金	△2	△6
固定資産	10,649	10,537
有形固定資産	8,707	8,536
無形固定資産	130	118
投資その他の資産	1,811	1,882
資産合計	21,087	20,759
負債の部		
流動負債	7,378	6,816
支払手形・買掛金	3,604	2,808
短期借入金	690	2,777
1年以内に返済予定の長期借入金	78	49
1年以内に償還予定の新株予約権付社債	641	—
未払法人税等	497	8
賞与引当金	209	205
その他	1,657	967
固定負債	1,011	1,904
新株予約権付社債	—	994
長期借入金	156	—
繰延税金負債	662	752
役員退職慰労引当金	172	139
その他	20	17
負債合計	8,389	8,720
資本の部		
資本合計	—	12,038
資本金	—	1,478
資本剰余金	—	1,793
利益剰余金	—	8,570
評価・換算差額等	—	198
自己株式	—	△2
負債・資本合計	—	20,759

純資産の部

株主資本	12,583	—
資本金	1,654	—
資本剰余金	1,970	—
利益剰余金	8,963	—
自己株式	△4	—
評価・換算差額等	113	—
その他有価証券評価差額金	113	—
純資産合計	12,697	—
負債・純資産合計	21,087	—

個別損益計算書

(単位:百万円)

	当期	前期
	平成18年4月1日から平成19年3月31日まで	平成17年4月1日から平成18年3月31日まで
売上高	29,964	28,791
売上原価	21,182	20,369
売上総利益	8,782	8,422
販売費及び一般管理費	7,747	7,673
営業利益	1,034	749
営業外収益	151	176
営業外費用	72	75
経常利益	1,113	850
特別利益	220	40
特別損失	329	64
税引前当期純利益	1,004	826
法人税、住民税及び事業税	514	39
法人税等調整額	△51	340
当期純利益	542	445
前期繰越利益	—	163
中間配当額	—	69
当期末処分利益	—	539

個別株主資本等変動計算書

(自平成18年4月1日至平成19年3月31日)

(単位:百万円)

	株主資本					評価・換算差額等 その他有価証券評価差額金	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計		
平成18年3月31日残高	1,478	1,793	8,570	△2	11,839	198	12,038
事業年度中の変動額							
新株の発行	176	176	—	—	353	—	353
剰余金の配当(注)	—	—	△71	—	△71	—	△71
剰余金の配当	—	—	△71	—	△71	—	△71
役員賞与(注)	—	—	△7	—	△7	—	△7
当期純利益	—	—	542	—	542	—	542
自己株式の売却	—	—	—	0	0	—	0
自己株式の取得	—	—	—	△1	△1	—	△1
株主資本以外の項目の事業年度中の変動額(純額)	—	—	—	—	—	△84	△84
事業年度中の変動額合計	176	176	392	△1	744	△84	659
平成19年3月31日残高	1,654	1,970	8,963	△4	12,583	113	12,697

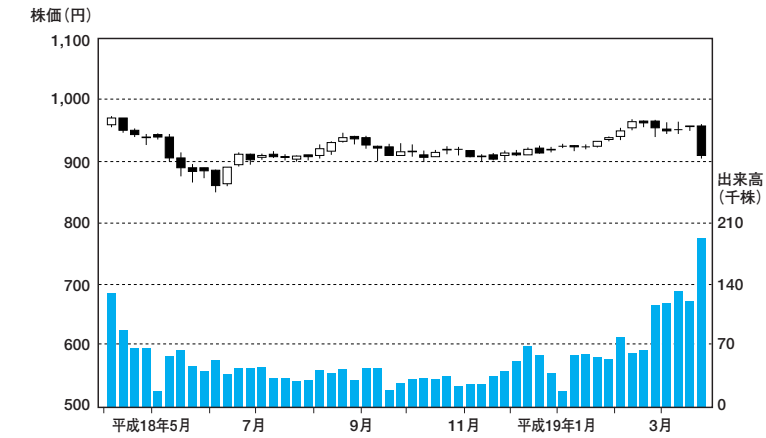
(注)平成18年6月の定時株主総会における利益処分項目であります。

株式の状況 (平成19年3月31日現在)

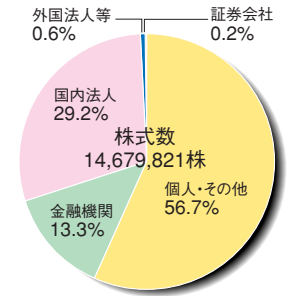
- 発行可能株式総数 40,000,000株
- 発行済株式の総数 14,679,821株
- 株主数 24,009名
- 大株主(上位10名)

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
株式会社名旺エーステート	2,517,000	17.15
有限会社メイオウ	837,336	5.70
名取三郎	676,108	4.61
横山よし子	672,684	4.58
名取雄一郎	543,700	3.70
なとり取引先持株会	460,120	3.13
名取治	443,500	3.02
名取浪男	431,520	2.94
なとり社員持株会	377,260	2.57
相澤ふみ江	298,000	2.03

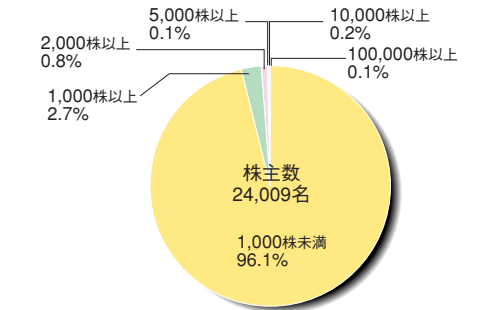
株価チャート (平成18年4月1日~平成19年3月末日)



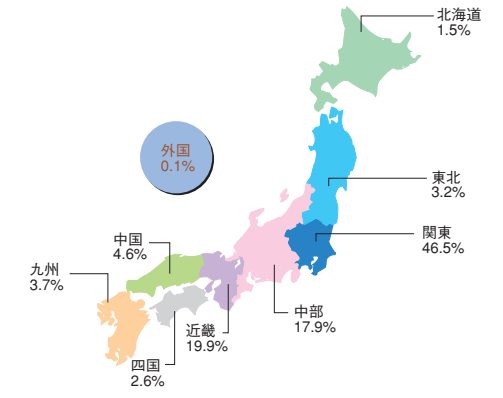
所有者別(株式数比率)



所有株式数別(株主数比率)



地域別(株主数比率)



HOME PAGE



<http://www.natori.co.jp/>

株主優待のご案内

毎期末3月31日現在、当社株式を100株以上保有のすべての株主の皆様に対して、よりすぐりの商品を贈呈いたしております。

- 100株以上1,000株未満 2,000円相当
- 1,000株以上 3,000円相当

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年の3月31日
定時株主総会	毎年6月
期末配当	3月31日の最終の株主名簿(実質株主名簿を含む)に記載または記録された株主(実質株主を含む)または登録質権者にお支払いいたします。
中間配当	中間配当をおこなう場合は、9月30日の最終の株主名簿(実質株主名簿を含む)に記載または記録された株主(実質株主を含む)または登録質権者にお支払いいたします。
基準日	定時株主総会の議決権 3月31日 期末配当 3月31日 中間配当 9月30日
公告の方法	電子公告の方法によります。ただし、電子公告によることができないやむを得ない事由が生じた場合は、日本経済新聞に掲載いたします。 電子公告ホームページ http://www.natori.co.jp/koukoku/index.html 貸借対照表・損益計算書ホームページ http://www.natori.co.jp/kessan/index.html
単元株式数	100株
株主名簿管理人	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社 本店
同事務取扱所 (お問い合わせ先)	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部 フリーダイヤル 0120(78)2031
同 取 次 所	中央三井信託銀行株式会社 全国各支店 日本証券代行株式会社本店および全国各支店